

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520169

研究課題名(和文)『長珊聞書』を中心とする中世の源氏物語古注釈の研究

研究課題名(英文) Study on old commentaries of *Genji monogatari* with special emphasis on *Chosan Kikigaki*

研究代表者

陣野 英則 (JINNO HIDENORI)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：40339627

研究成果の概要(和文)：本研究では、源氏物語古注釈の研究に取り組んできた。殊に、室町時代末期に成立した未翻刻の注釈書である『長珊聞書』(陽明文庫蔵)の調査・翻刻を進めた。また、研究協力者とともに『源注』(肥前嶋原松平文庫蔵)など、中世・近世の源氏物語古注釈書の発掘・調査・翻刻に取り組むとともに、古注釈書の注記内容の吟味・検討も進め、平安文学の古注釈及び受容というテーマに特化した論集を2冊まとめた。

研究成果の概要(英文)：I have conducted research on old commentaries of *Genji monogatari*. Especially, I have investigated and reprinted *Chosan Kikigaki* which is in Yomei Bunko's possession. This commentary came into existence in the late Muromachi era, and has not reprinted yet. On the other hand, we excavated and reprinted *Genchu* which is in Hizen Shimabara Matsudaira Bunko's possession, and so on. In addition, we compiled two collections of papers on old commentaries and receptions of Heian literature.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：古代文学 源氏物語 古注釈 長珊聞書 牡丹花肖柏 三条西家 伊勢物語 引用

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、以前の科学研究費補助金による研究、すなわち『光源氏物語抄(異本紫明抄)』を中心とする中世の源氏物語古注釈の研究(若手研究(B)、平成15～17年度)を踏襲し、より発展させようとするものであった。

上記の研究では、中世(鎌倉期)に成立し

た『光源氏物語抄(異本紫明抄)』の注記内容などについて吟味・検討することを中心課題に据えらるとともに、室町期の牡丹花肖柏と三条西家の源氏学に関わる未翻刻の重要な古注釈書の発掘・調査に取り組みはじめた。特に室町末期に成立した、三条西実隆・公条らの講釈を、長珊なる人物が聴聞してまとめた、『長珊聞書』全53冊が未翻刻の注釈書の

中ではきわめて重要であることを確認し、まずは基礎的な書誌などの調査に取り組んだ。あわせて、膨大な量に及ぶ『長珊聞書』を翻刻してゆくための体制づくり（研究協力者とのうちあわせなど）を進めた。

(2) 中世の源氏物語古注釈の展開にあわせて、平安文学の多様な受容に関する研究も特に21世紀に入ってから盛んになってきた。受容研究の対象とする時代・ジャンルはさまざまであるが、『源氏物語』を含む平安文学の古注釈と受容に関する基礎的な研究（資料紹介・翻刻など）に加えて、その内容の吟味・検討・考察も新たに展開してゆくことが期待される状況であった。

2. 研究の目的

(1) 室町時代末期に成立した、未翻刻の源氏物語古注釈書である『長珊聞書』（陽明文庫蔵、全53冊）の翻刻とその内容に関する研究に取り組み、この重要な注釈書を今後の『源氏物語』研究に活かしてゆくための基盤をつくる。

(2) 一条兼良から、宗祇、牡丹花肖柏、三条西実隆・公条・実枝らにいたる、室町時代の源氏物語古注釈の展開について、未翻刻の注釈書などに注目しつつ、より精確に調査・検討する。また、それらの古注釈に関連するさまざまな資料の発掘と調査に努める。

3. 研究の方法

(1) 3名の研究協力者と協力体制を形成した上で、『長珊聞書』全53冊をはじめとする、未翻刻の重要な源氏物語古注釈書の翻刻作業に取り組む。

(2) 中世（さらには近世も含む）の源氏物語古注釈にみられるさまざまな注記内容について吟味・検討する。その際、これまでも重要視されてきた注記ばかりでなく、むしろ近代以降の研究においては無視されることの多かった、わかりにくい注記、あるいは奇妙におもわれる注記などに注目し、そのような注釈がなされた背景・論理などを探る。

4. 研究成果

(1) 未翻刻の源氏物語古注釈書『長珊聞書』（全53冊）の翻刻作業を進め、ひとまず全4分冊として公刊を予定している翻刻書のうちの第1分冊に相当する部分については、研究協力者及び研究補助員の助力も得て、その大半の翻刻を終えた。ただし、翻刻書の公刊に際してはできる限り

精確になるよう厳重にチェックする必要がある。現在は、そのチェック作業を慎重に進めている。研究期間内の刊行には至らなかったが、遠からぬうちに、武蔵野書院の『源氏物語古注釈叢刊』というシリーズより第1分冊を刊行する予定である。

(2) ベルリン国立図書館蔵『源氏物語』54帖（室町末ごろ書写）を調査した。まずは、ベルリンに向かう前に、この写本が三条西家流『源氏物語』の本文をもっている可能性が非常に高いことを確認した上で、現地に赴き調査するとともに、マイクロフィルムの複製も入手した。

本文は、全体に三条西家流であることは確認されたが、興味深い独自異文を有する箇所が「夕顔」巻のみにみられることを把握した。その詳細な検討にあたっては、独自異文のほとんどが擦り消されているため、マイクロフィルムでの把握は無理であった。

この点については、平成23年度以降、あらためてベルリンに出張して調査する予定である。

(3) 横溝博氏（現在 東北大学准教授）の全面的な協力を得て、未翻刻の源氏物語古注釈書『源注』（肥前嶋原松平文庫蔵）の翻刻作業を完了させた。

この写本には、一条兼良から肖柏、三条西家へと展開する注釈の流れをとらえる上できわめて重要な『肖柏問答抄』などが含まれていた。この翻刻全文は、平成20年9月刊行の陣野・横溝編『平安文学の古注釈と受容 第一集』（武蔵野書院）に掲載した。

(4) 中世（さらには近世も含む）の源氏物語古注釈にみられるさまざまな注記内容のうち、特に今日では無視されてしまうことの多いわかりにくい注記、あるいは奇妙におもわれる内容をもつ注記などに注目し、それらの意義について検討した成果を2本の論考にまとめた。

いずれも私自身が編者として関わっている『平安文学の古注釈と受容』の第一集と第二集』（武蔵野書院）に掲載している。

(5) 早稲田大学古注の会のメンバーとともに、早稲田大学図書館蔵の『源氏物語注』と題された未紹介の写本の翻刻とその内容の検討に取り組んでいる。

この注釈書では、契沖『源注拾遺』、及び賀茂真淵『源氏物語新釈』の注記が適宜取り込まれている。また、真淵門下の加藤美樹による『雨夜物語だみことば』と照らし合わせてみると、『だみことば』に引かれている『源氏物語新釈』の注記との一致度が非常に高いように見受けられた。この翻刻作業は平成23

年度中には完成させ、遅くとも翌年度中にはその翻刻と解題をまとめて公にしたいと考えている。

(6) 上記の(3)・(4)で言及したように、陣野英則・横溝博編『平安文学の古注釈と受容 第一集』及び陣野英則・新美哲彦・横溝博編『平安文学の古注釈と受容 第二集』を武蔵野書院より刊行した。

これらの論集では、斯学の中堅もしくは新進として活躍中の研究者の論考、及び未翻刻の古注釈等の翻刻・紹介を掲載し、『源氏物語』を含む平安時代文学の古注釈と受容研究の深化・発展を促進した。

なお、平成 23 年 5 月末には陣野英則・緑川真知子編『平安文学の古注釈と受容 第三集』が刊行される予定である。こちらでは、海外を含む受容に関する特集、及び『枕草子』の変容に関わる特集を組んでいる。

(7) 平成 22 年後半より、早稲田大学図書館に収蔵されることとなった九曜文庫本の源氏物語古注釈書のうち、とりわけ貴重とおもわれた幾種類かの写本の調査に取り組みはじめた。その中には非常に珍しい片仮名本『河海抄』、また室町末期から江戸時代初期にかけての享受の実態をより具体的に把握しうるような新出資料も含まれており、今後継続して調査に取り組むつもりである。

(8) 以上の(1)~(7)のような古注釈と受容に関わる研究を応用しながら、おもに『源氏物語』本体の内容に関わる研究にも併行して取り組み、数篇の論考にまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

- ① 陣野英則、『源氏物語』の「いとほし」、早稲田大学文学研究科紀要、査読無、第 56 輯第 3 分冊、2011 年、pp. 19-35
- ② 陣野英則、『源氏物語』「総角」巻の「いとほし」—困惑しあう人々—、国文学研究(早稲田大学国文学会)、査読有、第 162、2010 年、pp. 1-12
- ③ 진노 히데노리 〈陣野英則〉、『젠지 모노가타리(源氏物語)』 동어반복 표현의 사정(射程) (『源氏物語』における同語反復表現の射程)、日本研究(高麗大学校日本研究センター)、査読無、Vol. 14、2010 年、pp. 113-134

④ 陣野英則、文学の方法と文学研究の〈方法〉—『源氏物語』の和歌と語り手たちの問題から—、日本文学(日本文学協会)、査読有、第 59 巻第 5 号、2010 年、pp. 57-65

⑤ 陣野英則、『源氏物語』「玉鬘十帖」の『白氏文集』引用—「篝火」巻における白詩からの変換の妙—、日本古代文学と白居易—王朝文学の生成と東アジア文化交流—(高松寿夫・雋雪艶編、勉誠出版)、査読無、2010 年、pp. 190-211

⑥ 陣野英則、『源氏物語』「藤のうら葉」巻の同語反復—その諧謔性と志向性—、源氏物語の展望 第七輯(森一郎・岩佐美代子・坂本共展編、三弥井書店)、査読無、2009 年、pp. 104-141

⑦ 陣野英則、『源氏物語』「梅枝」巻の書、書物と手紙—「雨夜の品定め」との照応を手がかりに—、源氏物語の言語表現 研究と資料—古代文学論叢第十八輯—(紫式部学会編、武蔵野書院)、査読無、2009 年、pp. 241-265

⑧ 陣野英則、古注釈の示唆する『源氏物語』の和歌的表現—式部卿宮の大北の方による「ののしり」の言葉をめぐって—、平安文学の古注釈と受容 第二集(陣野英則・新美哲彦・横溝博編、武蔵野書院)、査読無、2009 年、pp. 199-214

⑨ 陣野英則、弁の尼を超える薫—『源氏物語』「宿木」「東屋」巻の言葉から—、源氏物語の新研究—宇治十帖を考える(小山清文・袴田光康編、新典社)、査読無、2009 年、pp. 126-143

⑩ 陣野英則、『源氏物語』における歌わない人々—二つの観点から—、源氏物語の歌と人物(池田節子・久富木原玲・小嶋菜温子編、翰林書房)、査読無、2009 年、pp. 265-283

⑪ 陣野英則、玉鬘と弁のおもと—求婚譚における「心浅き」女房の重要性、端役で光る源氏物語(久保朝孝・外山敦子編、世界思想社)、査読無、2009 年、pp. 111-128

⑫ 陣野英則、『伊勢物語』と『源氏物語』をつなぐ古注釈—的はずれにみえる注記のみなおし—、平安文学の古注釈と受容 第一集(陣野英則・横溝博編、武蔵野書院)、査読無、2008 年、pp. 40-54

⑬ 陣野英則、「物語」の切っ先としての薫—『源氏物語』「橋姫」「椎本」巻の言葉か

ら一、國語と國文學（東京大学国語国文学会）、査読有、第 85 卷第 6 号、2008 年、pp.18-32

- ⑭ 陣野英則、『源氏物語』古注釈の魅力—新たな調査・研究に向けて—、武蔵野文学（武蔵野書院）、査読無、55 号、2007 年、pp.22-28
- ⑮ 陣野英則、『堤中納言物語』「よしなしごと」と「冬ごもる……」—その形態・享受に関する試論—、古代中世文学論考 第二重集（古代中世文学論考刊行会編、新典社）、査読無、2007 年、pp.212-237

〔学会発表〕（計 3 件）

- ① 陣野英則、『源氏物語』における同語反復表現の射程、若手研究の未来構築フォーラム—東アジア共同体と日本研究、2010 年 5 月 14 日、高麗大学校（韓国・ソウル）
- ② 陣野英則、『源氏物語』「玉鬢十帖」における『白氏文集』引用、早稲田大学日本古典籍研究所・清華大学外語系 共催シンポジウム 日本古代文学と白居易、2009 年 7 月 25 日、早稲田大学戸山キャンパス（東京）
- ③ 陣野英則、『源氏物語』とその同時代文学における「引用」の再検討、平成二十年度全国大学国語国文学会冬季大会 公開シンポジウム第二部「源氏物語研究の現状と展望」、2008 年 12 月 7 日、関西学院大学（西宮市）

〔図書〕（計 5 件）

- ① 陣野英則・新美哲彦・横溝博 編、武蔵野書院、平安文学の古注釈と受容 第二集、2009 年、226
- ② 今西祐一郎・室伏信助 監修、上原作和・陣野英則 編、勉誠出版、テーマで読む源氏物語論 3 歴史・文化との交差 語り手・書き手・作者、2008 年、716
- ③ 今西祐一郎・室伏信助 監修、上原作和・陣野英則 編、勉誠出版、テーマで読む源氏物語論 1 「主題」論の過去と現在、2008 年、560
- ④ 陣野英則・横溝博 編、武蔵野書院、平安文学の古注釈と受容 第一集、2008 年、184
- ⑤ 今西祐一郎・室伏信助 監修、上原作和・

陣野英則 編、勉誠出版、テーマで読む源氏物語論 2 本文史学の展開 言葉をめぐる精査、2008 年、490

〔その他〕

ホームページ等

https://www.wnp7.waseda.jp/Rdb/app/ip/ipi0211.html?lang_kbn=0&kensaku_no=1143

6. 研究組織

(1) 研究代表者

陣野 英則 (JINNO HIDENORI)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：40339627